

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 7 日現在

機関番号：12701

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22720058

研究課題名（和文）イタリア・ルカーニアの音楽・舞踊研究
——現代社会における伝統芸能の観点から——

研究課題名（英文）Study of Dance Music in Lucania (Italy)

研究代表者

金光 真理子 (KANEMITSU MARIKO)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：40466941

研究成果の概要（和文）：本研究はイタリア南部の音楽・舞踊であるタランテッラを対象とし、その構造と美学の分析を通して、地域文化の伝統的な身体表現を読み解くものである。フィールドワークに基づき、複数の村のタランテッラの比較分析を行った結果、第一に、基礎研究となる、舞踊のステップと形式、さらに身振りの規則を整理して明らかにすることができた。第二に、舞踊分析に基づいて音楽を再検討することで、二連符から三連符へのリズムの変遷の可能性を論証し、踊り手（身体性）の観点から舞踊音楽の構造を分析・考察する重要性を指摘した。

研究成果の概要（英文）：This study of southern-Italian dance and music, Tarantella, aims at interpreting a cultural expression traditionally embodied in music and dance. Based on fieldwork, I researched several dance styles of Tarantella in different communities and analyzed their structure and aesthetics. The analysis provided data on dance steps, form/choreography, and behavioral rules. In addition, I reexamined the musical structure from the dancer's point of view. My conclusion is that rhythmic generation from duplet to triplet is influenced by a dancer's steps. This, then, implies that corporeality should be considered when analyzing dance music.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：民族音楽学、イタリア、民俗芸能、民俗音楽、民俗舞踊

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまでイタリアの民俗音楽・舞踊を対象とし、音楽・舞踊の分析を通して、（音楽・舞踊を含めた総体としての）地域文化を理解する枠組みを考察してきた。2008 -

2009年度に行ったカラブリア地方の舞踊音楽の研究（若手研究（B）課題番号20720035）では、地域文化の一環として音楽・舞踊の構造と美学（美的価値観）を読み解くことを試みた。その結果、第一に民俗芸能（音楽・

舞踊)へ昇華された身体表現・コミュニケーションの存在、第二にその地域性(村ごとの独自性)を指摘することができた。

本研究では、次のステップとして、この民俗芸能の身体表現・コミュニケーションとその地域性を具体的に分析し、その実態を明らかにすることを目標とした。分析の観点として考慮に入れたのは、現代社会において民俗芸能が地域文化であると同時に国際的に認知・発信される伝統芸能となり、「とどまる力(ローカル)と超え行く力(グローバル)」(高松編 2008、2009)のはざまにあることである。地域独自のローカルな文化として育まれてきた芸能が、グローバル化が進む現代社会において、どのように受け継がれ、あるいは創りかえられていくのか。このダイナミズムを考慮に入れながら、イタリアの民俗芸能を考察することで、伝統芸能の新たな理解の枠組みをも検討することをめざした。

2. 研究の目的

本研究は、イタリア南部ルカーニア地方の民俗舞踊・音楽であるタランテッラの分析・考察を通して、その構造と美学を明らかにし、とくに「現代社会に生きる伝統芸能」という観点から、地域文化としての伝統的な身体表現とその現在を明らかにすることをめざした。

本研究の狙いは、第一に、イタリアの民族音楽学においても未だ事例が限られているタランテッラ研究の一事例を提供することによって、民族音楽学を始めとするイタリアの音楽文化研究へ資することにある。とくに申請者が対象としたルカーニア地方のタランテッラは、ザンポーニャ(イタリア南部のバッグパイブ)による伝統的なスタイルである。フィールドワークを通して、複数の村のタランテッラの比較分析を行い、基礎研究の充実を図った。

第二に、このイタリア南部の事例研究を通して、現代社会における伝統芸能研究に新たな示唆を提示することにある。ルカーニア地方は、ホブズボウムが慣習 custom と呼んだ伝統を根強く保持すると同時に確実に現代化も進んでいる地域であり、現代社会における伝統芸能を検討するには格好の対象である。イタリアのみならずヨーロッパの民族音楽学を俯瞰し、より幅広い視野を念頭に置いて考察することを目論んだ。

3. 研究の方法

申請者は、フィールドワークを重視する立場から、実際にザンポーニャが演奏され、舞踊が踊られる現場でのパフォーマンスに焦点を当て、踊り手同士のやりとり、それに対

する演奏者の反応等、複数の要素を観察し、分析・考察することを重視した。また、とくに優れた踊り手・演奏家の協力を得て、パフォーマンスの記録を撮ると共にインタビューを行った。

そのため、2010年および2011年の夏季に、各2~3週間ずつ、バジリカータ州およびカラブリア州他の複数の村(アレッサンドリア・デル・カレット村、サン・コスタンティノー・アルバネーゼ村、テッラノーヴァ・ディ・ポッリーノ村、ヴィジヤネッロ村)で調査を進めた。具体的には、これらの村の祭り全体を参与観察し、ビデオで記録するかたわら、個人的に踊り手や演奏家へインタビューを行った。

また、身体感覚を理解するためにも、みずからもザンポーニャの演奏法と舞踊のステップとを学んだ。この学びのプロセスを通じて、より現地の人々に近いレベルで音楽・舞踊を会得するばかりでなく、説明や注意の言葉から、演奏家/踊り手自身がいかに音楽/舞踊を理解し、何を重視しているか等、彼らの美的価値観を見極めることをめざした。

国内ではこうして蒐集したデータを基に分析・考察を進めた。舞踊・音楽の形式的な分析を行う一方、インタビュー資料から各共同体の慣習・価値観の歴史的な変遷を考察した。

4. 研究成果

フィールドワークで蒐集した音楽・舞踊のデータを分析・考察した結果、大きく分けて舞踊の構造の基礎研究とそれに基づく仮説との二つの成果を得ることができた。

前者に関しては、三つのタランテッラの事例を中心に、舞踊の構造を整理し、明らかにすると共に、身振りの規則をめぐって、伝統的な身体表現を措定し、その社会的な意味を読み解いた。後者に関しては、舞踊分析に基づき、タランテッラの音楽構造を再検討することで、リズムの新たな解釈を提示し、身体性を考慮に入れた音楽分析の重要性を示唆した。

以下、この二つの成果について、より詳細に述べたい。

(1) 基礎研究：タランテッラの構造

本研究では、三通りのタランテッラ——①宗教行列におけるタランテッラ、②ポッリーノ地方のタランテッラ(パストゥラーレ *pasturale*)、③サン・コスタンティノー・アルバネーゼ村のタランテッラ(クムザ *këmbza*)——を中心に、舞踊のステップと形式を分析し、ラバノーテーションによって記譜した(口頭発表および一部を紀要論文に掲載)。

たとえば、パストゥラーレの場合、以下の
ように項目ごとに整理することができる。

- ・ **踊り手**：男女一組（ないし二組）
- ・ **ステップ**：二種類

①キッツァテッラ **chizzatella**：基本のステップ、一拍一拍を右足で踏み込む。リズムは、短-長の三連符（♪♪♪）とも二連符とも考えられる。

②テルツィナート **terzinato**：合間に用いられる繋ぎのステップ。リズムは長-短（三連符）-長（♪♪♪）。

・ **形式／コレオグラフィ**：あらかじめ決まった振付はなく、左回りという方向のみ定まっている。円形の動線（二人ないし四人の踊り手が共有する「大きな円」と各踊り手が描く「小さな円」）上で、踊り手は様々な動作を自由に、即興的に選び組み合わせることができる。

- ・ **動作**：三種類（基本）

①ルオータ **ruota**（車輪のように円状で回る物の意）：各人がキッツァテッラのステップで小さな円上を左回りに回る動作を、二人（四人）一緒にタイミングを合わせて行う。全体として大きな円上を左回りに進んでいくため、二人（四人）が作る輪が回っているような印象を与える。

②メツァ・ルオータ **mezza ruota**：半分のルオータを意味し、キッツァテッラのステップで大きな円上を左回りに180度ほど進む動作。

③スプンタ・ペーデ **spunta pede**（つま先のステップの意）：二人（四人）がその場で向かい合い、テルツィナートのステップを行う動作。

その他、テルツィナートのステップでの前進、半回転し（向きを変えて）テルツィナートのステップでの後進、身体の回転など。

このような舞踊の基本構造を整理し、各村の伝統的な（と考えられる）様式を明らかにすることで、それを参照点として舞踊の実践例を分析することができるようになる。引き続き、伝統的な様式の措定と舞踊の実例の分析とを重ねていくことを課題としている。

また、舞踊の身振りの規則についても、映像分析やインタビューを通して整理し、伝統的と考えられる身体表現を措定することができた。具体的には、「相手に背中を向けない」、「相手に触れない」、「踊りから抜けない」の三つの規則を指摘することができた。これらの規則となった、あるいはそれに従う形でパターン化された様々な身体表現には、20世紀前半までの地域社会における人間関係、とりわけ男女の性的規範やふるまいの規則が反映されているのを見て取ることができる。

事実、現在の舞踊では、上述の規則から逸脱する事例も確認され、規則が形骸化し、身体表現が変化していることが判った。引き続き、民俗舞踊へと昇華された身体表現を、社会的・文化的に再検討することで、タランテッラ研究をイタリアの地域文化研究へ発展させていきたいと考えている。

（2）身体性に鑑みた音楽分析

タランテッラの舞踊分析を通して、一見踊り手が自由に、あるいは無秩序に行っているようにみえる動作の選択・推移も実は音楽に従ったものであり、舞踊を理解するには音楽を理解する必要があることが判った。そこで申請者は音楽についても、舞踊ないし踊り手の観点からその構造を再検討することを試みた。とくに身体性（踊り手および演奏家の身体運動・感覚）に注目し、ステップの分析を通じて音楽のリズムを考察した。

ステップにおいて踊り手が意識し、重視しているのは、重心をかけて強く踏み込む、主に右足の一步一步である。それを支える逆の足（左足）は必然的に軽く弱く踏むことになり、両足のあいだに「重-軽」、「強-弱」のコントラストが生まれる。これはリズムにすると「長-短（♪♪♪）」であり、ここに三連符のリズムの素地が認められる。したがって、重心を両足に均等にかける歩行のステップから、重心を片足へかけて踏み込む舞踊のステップへと移行する過程に、二連符から三連符へのリズムの生成が内包されているといえる。これと並行するかたちで、音楽のリズム・パターンもまた二連符から三連符へと変遷した可能性があり、二種類のバグパイプとリズム・パターンの分析から論証した（学会発表）。このタランテッラの音楽のリズムに関しては、国際学会の発表で一定の評価を得ると同時に、貴重な意見・批判も得ることができた。今後の検証が課題であるが、音楽・舞踊の構造分析に身体性という一つの重要な観点を提示することができたと考えている。

以上に述べた二つの成果は、イタリア南部の舞踊・音楽についてはヨーロッパの民俗芸能の基礎研究として重要なデータになると考えている。このデータを活かした研究の発展が引き続き必要であり、分析・考察の精度をより高めていく予定である。そのため、フィールドワークを継続し、より多くの協力者を得ながらデータを蒐集することで、各村の舞踊・音楽の様式的特徴を定量的に分析していく。その結果を地方様式の比較研究として学会のみならず現地へも還元していきたい。

他方、グローバルな視点で民俗芸能研究を発展させていくためにも、本研究をイタリアのその他の地域を始めヨーロッパの伝統芸

能研究の中へ位置づけていくことを常に検討している。共同研究の可能性も含め、学会での口頭発表・論文投稿を積極的に行っていきたい。

・参考文献

高松晃子編（2008、2009）日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業研究報告『伝統から創造へ』。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

金光真理子、イタリア南部の民俗舞踊の構造と身体表現——ポッリーノのパストゥラレを例に——、横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ(人文科学)、査読無、14巻、2011、21—35

〔学会発表〕（計1件）

金光真理子、Analysis of music from the performer's perspective: a case study of Tarantella, Italian folk dance、International Council for Traditional Music、2011年7月15日、メモリアル大学(カナダ)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金光 真理子(KANEMITSU MARIKO)
横浜国立大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号：40466941

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：